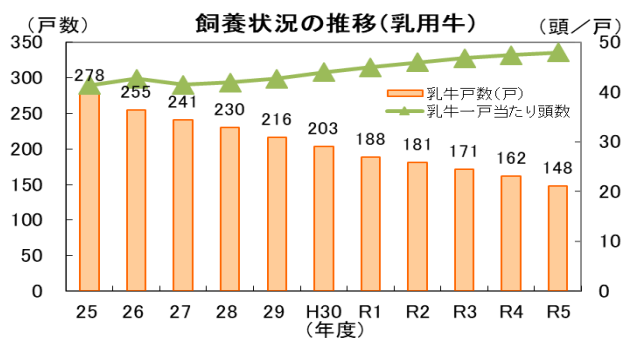


## 2 畜産の状況

### (1) 酪農

- 酪農の主な産地は大里郡で、深谷市、寄居町の2市で県内乳用牛の約4割を飼養している。
- 主な飼養形態は繋ぎ飼いで、大規模農家ではフリーストール牛舎が多い。
- 県営の秩父高原牧場では、県内育成牛の受託育成と人工授精、胚移植を行い、優良後継牛の供給を行っている。
- 乳用牛の改良や、ロボットを活用した飼養管理技術の改善等による省力化などにより、生産コストの低減へ向けた取組が進められている。畜産安全課の調べでは、搾乳ロボットは3戸、哺乳ロボットは8戸が導入している。
- 一方、高齢化や後継者不足、近年では飼料価格の高騰等による生産コストの上昇が経営を圧迫し、戸数は減少傾向である。
- 県内6牧場が「酪農教育ファーム認証牧場」の認証を受け、酪農を通して食や仕事、いのちの学びを支援する活動を行っている。
- 令和4年の県内の生乳生産量は47.0千トン（需要量717.1千トン）で県内自給率は6.6%である。
- 生産者乳価（飲用・発酵乳向け）は、平成31年4月の1kg当たり4円の値上げ以降は据え置きであったが、飼料価格高騰等を背景に、令和4年11月及び令和5年8月に、それぞれ1kg当たり10円値上げされた。



【フリーストール牛舎】



【搾乳ロボット】



【哺乳ロボット】